

檀信徒・霊園使用者各位に発行しています。

今年も早、半年。

平成25年もはや半分がすぎました。年を取ると一年一年早く感じるようですが、不惑を前にして生意気にも実感しております。今年四月、京都市福知山市にある長安寺というお寺に行ってきました。こちらの薬師如来様は靈驗あらたかな秘仏として有名で、三十三年に一度のご開帳に合わせ、檀信徒総四百名が参加する授戒会が行われたのです。この大変貴重な機会に役僧として呼んで戴いたのです。授戒会と言えば前年大本山南禅寺でも行われました。その時は参加者が五千人を超えたから、それぞれの滞在時間が約半日という実

は簡略化された形式で行われました。しかし今回の長安寺授戒会には参加者（戒徒）も約三百人に絞られ、三日間かけてみっちり行われる本格的な形式。戒徒は期間中、早朝から夜遅くまで法要と説戒（授戒のための法話）、それから加行礼拝を繰り返して修業します。本来、授戒は釈尊の正式な弟子となる儀式ですから、当然そこには「修業」がつきもので、その中でも加行礼拝はハイライトとなる荒行です。「三千仏名経」という経典に記された仏名が一つ一つ読み上げられるごとに、五体投地の礼拝を捧げるのです。つまり三千回の五体投地。これはやる方も大変ですが、指導役の役僧も大変です。私も一緒に礼拝してきましたが、最後には



授戒会に望む戒徒。そろいの涅槃衣を着ている

おでこの皮がすりむけちゃいました。確かにきつい修業ですが、やり遂げた皆さんはどなた様も、すがすがしい面持ちで、感激のあまり涙する方も沢山おられました。一緒に指導役をなされた地元長老は「寺の住職になったからには一生のうち一度は自分の寺で授戒会をやる物だ」と。……皆さん、いつか宝泉寺で三千回の礼拝をしませんか？

今年上半期、布教師として呼んで戴くことが重なりました。法務は滞りなく行っているつもりでありますが、法事の日程などをご迷惑をおかけしたと思います。大変申し訳なく思っております。話をすると、いろいろお寺で勉強になりますし、若手布教師（この業界は60才まで若手と呼ばれます）として今のうちに一生懸命経験を積んでおくことも大切だと思っております。宝泉寺に必ずフィードバックいたしますのでどうか寛恕くださいます。さてそんな中で最も長丁場だったのが四月上旬に行つて参りました巡教です。巡教というのは本

法話



山管長猊下の代理として各地方の法要に参加し法話をする事で、未熟者の私も、福岡糸島地方の各寺院を廻つて参りました。

糸島地方は、九州最大の都市博多から30分あまりの近場でありながら、玄界灘に面した大変美しいのどかな処です。のどかさ過ぎてコンビニはおろか自動販売機も滅多になく、という、修業にはもってこいの環境です。ここで各お寺に泊めて戴きながら十二日間法話三昧です。大変でしたが、良い勉強が出来ました。

臨済禅は室町時代、栄西禅師により中国よりもたらされます。当時の交通手段は船ですから、ちやうど私が廻つたこのあたりが玄関口であったのです。帰朝した禅師はまず、上陸したこの地に禅寺をお開きになります。日本禅宗の発祥の地であるこの地方は、その後も



糸島湾から玄界灘を望む

優れた禅僧を多く輩出し続けました。たとえば毎年百万人の観光客を集める博多祇園山笠は博多承天寺開山

聖一國師が、疫病退散のために、施餓鬼棚から甘露水を撒いた、というのが由来だそうですが、この方もまた、臨済禅の優れた禅匠です。

江戸時代になると仙崖義梵が登壇します。厳しい修行の後、九州に住み着いて大いにその禅風を挙揚、大変親しみやすい人柄で、町の人々と共に暮らしながら、優しくわかりやすく禅を説いた、不世出の傑僧です。また、布教師のお手本のような方です。

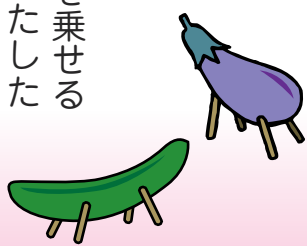
ある時信者の素麺屋さんが粉まみれの仕事着で仙崖和尚を訊ねてきました。「ばた餅を作ったので急いで持つてきました」とすると和尚は一旦奥に消え、しばらくすると立派な袈裟をつけて、素麺屋さんを迎えました。「あんたがせつかく仕事着で仕事着でお迎えにやあ罰が当たる、身分も仕事に働くその姿、一生懸命の敬意をもつて、この素麺屋を迎えたのです。洒落で情に溢れ、そして「無分別智」という禅の境界を体現している、とても印象的なお話です。仙崖和尚は、若い学人にこういう言葉を残しています。「博学強記にして智慧なきはなお盲者の燭をとるが如くただ自己に無益なるのみならず天下の笑いとなる」知識を得ることは大事だけれど、知識のみに偏つて「智慧」を身につけなければ提灯を持ちながら目をつむつて歩くような物で、無益なばかりか天下の笑いのとなる、というのです。



お盆の精霊棚の飾り付け一例です。ご参考にどうぞ。

- ① テーブルにマコモを敷く
 - ② 四方に笹を立て麻縄で結ぶ
 - ③ 位牌香炉燭台花等を飾る
 - ④ 茄子や胡瓜で馬と牛を作る
 - ⑤ 蓮葉に夏野菜の粗みじん切りと生米を乗せる
 - ⑥ 「水の子（みずのこ）」、椀に清水を満たした「閻伽水（あかみず）」を供える
 - ⑦ 膳をつくり供える
- その他、そうめん、果物など夏の食物を供えてください

お盆セットがスーパーなどで売っていますが、詳しくは住職までお気軽にお問い合わせください！



現代社会では次々と新しい知識が登場します。大きな問題になっている原発技術をはじめ、最近ではIPS細胞によるクローン技術などもノーベル賞を受賞し世界の耳目を集めました。しかしすべての技術は結局人間が雲代するのです。原発事故は津波の威力を甘く見て建物造った結果です。し、IPS細胞では、嘘をついて手柄を立てようと話題を撒いた自称医師が居ました。高い学歴と知識を持ちながら正しく運用する智慧が十分ではなかった。まさに「博学強記にして智慧なきは天下の笑いとなる」です。技術は素晴らしくとも、取り巻く人間に知恵が無いと、せつかくの素晴らしい技術が台なしになったり、けちがついたりするので

優れた智慧、とは即ち優れた人間性です。私利私欲、嘘、かけひき、言い訳、そういったものから離れた、素直で清浄な心の有り様です。釈尊、さらに仙崖和尚は、智慧の心がなければ、どんな優れた技術も知識も結局人様の役には経たないのだと仰っているのです。

我々の身近にはパソコンや携帯電話など、最先端の技術や情報が溢れています。私たちにはそれらを正しく使いこなす、知識と智慧を持つていないでしょうか。己に過信していないで、しょうか。現代にあつては常に仙崖和尚の言葉を思い出し、心にとどめおく必要があります。身につけ



巡教で訪れたお寺に所蔵されている仙崖和尚の墨跡真筆

コラム

仏事に関する よもやまばなし



お葬式の際に、坊さんはどんな儀式をしているのか、と言うお話です。実はお葬式は一言で言うと「戒名授与」の儀式なんです。

「戒名」というと、何となく亡くなった方にお付けする「死後の名前」というイメージがありますが、ホントは全然違います。戒名は「戒律を保つ者の名前」という意味。「戒律」とはお釈迦様の教えのこと。

た知識技術を、正しい心で運用する。それこそが現代社会を生きる私たちに求められる資質なのだと思います。

優れた人間性、即ち智慧を持つことが釈尊の最大の望みでした。智慧を持つ人は、どんな時代、どんな社会にも通用するのです。知識だけではない、智慧を持った人は、技術だけでなく、人生を使いこなすことが出来ます。

つまり戒名は「お釈迦様の弟子（仏弟子）としての誓いを立てた者が名乗る名前」なんです。

本来仏弟子となるご縁は、元氣なときに結ぶのが好ましい。お釈迦様とその代理としての「戒師」に弟子の礼を取り、「仏弟子」となるからにはその教え、戒律をきちんと学びます」という誓約をたてるのです。

そこで名付けられるのが「戒名」です。私たち出家したお坊さんもちろん仏弟子です。だから戒名を持つています。坊さんなので「僧名」と言いますが、同じ意味です。

以前本山で行われた「授戒会」という儀式は在家（世俗に暮らしをしながら）の仏弟子になるの為此のもので、参加した者にやはり「戒名」が授与されました。

た。出家した仏弟子（僧侶）を正しくは「沙門」といい、在家の仏弟子を男性は優婆塞（うぱさく）女性に優婆夷（うぱい）といいますが、優婆塞、優婆夷になるのが戒名を戴く、ということの意味なのです。

お葬式では「遅ればせ」ながら、亡くなった方にお釈迦様に弟子の礼を取ってもらい導師（葬式でお勤めをするお坊さん）を直接の師として仏弟子になつて戴く。そうして堂々と極楽浄土へ入つていただきます。という儀式なのです。だから残った者はお戒名を位牌に刻んで、子々孫々までその仏弟子となつた功績を称え、礼拝するので。もちろん生前授戒会に参加して戒名授与された方は、そのお名前が、お位牌に刻まれることとなります。

{か}

あいうえお用語辞典 看話禅（かなぜん）

禅の修行は大きく「黙照禅（もくしやうぜん）」と「看話禅」の二通り。ひとすべから一途に座禅三昧が黙照禅。日々の座禅に加え、師と弟子の一对一の禅問答の中から悟りの道を導き出すのが看話禅。有名な禅問答「両手を打つとパンと音がするが片

手打つたらどんな音？」分かります。分らない。体験や修行生活から絞り出した全身全霊の答えが師匠に認められるか、勝負の一瞬です。わが臨済宗は看話禅の修行。私も大いに苦しみマシタ。

と言うことは、仏教でお葬式を行うときは、基本的には俗名のまま、と言うわけには行きません。それから、自分で勝手に戒名を名乗ることも出来ません。以前ある学者さんが著書の中で「戒名は自分でつくつて良い」と書いていました。が、間違いです。戒名は弟子としての名前ですから当然、お師匠様につけて戴くのが当たり前で、師匠であるお釈迦様の代わりに、教えを身につけた授戒会の戒師や、葬儀の導師が名付けるのです。お花やお茶等をやっていらっしゃる方一人前になると師匠から名前を戴くのと同じです。勝手に名乗るのは認められませんが、日常生活にあつては普段の名前（俗名）を名乗り、お釈迦様の法を聞く時には戒名を使う。どちらの名前も有用な物として活用していかなければなりません。

お戒名にはいろんな形があります。臨済宗では大きく分けて三通り有ります。男性の場合、○○院○○○居士、○○○居士、○○○居士、○○○信士などです。（女性の場合は○○院○○○大姉、○○○大姉、○○○信女、○○○宗派や地域によって若干違います。

信士（信女）という称号は在家の暮らしをしながら聞法（修業）をする人のこと、居士（大姉）は在家のまま修行道場に身を置いて人、院号というのはいずれの中にも特に仏法興隆や社会貢献に寄与した人につけられます。様に仏弟子と言っても、出家して専門的に修業する人もいれば、家族を養うために日

常生活をしながら修業する人もいます。修業方法、また仏法習熟度にも違いがある。戒名の形はそれぞれに即してつけられています。だからお戒名は元々ランク付けでは有りません。どのお名前も同じ仏弟子として正しい名前です。からどつちが良いとか、と言う次元の問題ではないのです。

お葬式で「遅ればせながら」お付けするお戒名の場合、本人の仏法習熟度が測れませんので、人品骨柄を表現出来るようにつくります。お戒名を通して、お参りする方に生前の様子を思い起こし心を込めてお参りして欲しいからです。俗名の一字を入れる、という決まり事は本来ないのですが、字義や前後の繋がりが条件が整ったときのみ、同様の理由から使用することがあります。

実際問題、多くの方がお葬式での戒名授与、という形を取ります。大事な事はお釈迦様の御教えをしつかり胸に戴く覚悟です。私が住職として導師をお勤めするときには、無事に仏弟子となつて頂けるよう、誠心誠意お導きを致します。しかしお亡くなりになつた方はご自分で声を出して決意表明出来ませんから、皆さんがお葬式に参列されたときには、お亡くなりになつた方の代わりに「しつかり教えを守ります！」と勤めるようなお気持ちを持つて戴けると嬉しいのです。お葬式を単なるお別れの場としてしまつてはやはり寂しいではないですか。沢山のご縁の方々と、精一杯の誠意と、敬意を持つてお送り申し上げる。そこで初めてありがたい仏様になつて頂ける、と思うのです。

霊園管理事務所から

霊園だより

はじめとした日が続きますが皆様いかがお過ごしでしょうか。梅雨が明けるとお盆の時期がやってきます。管理事務所でもお花お線香をご用意して皆様の墓参をお待ちしておりますので是非ご利用ください。七月のお盆直前まで霊園二区、三区の階段修復工事をしていきます。その間迂回路などご不便おかけいたしますが足下に気をつけてお参りください。皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げます。

八王子南霊園

管理事務所 畑山

編集後記

九月のお彼岸に、「宝泉寺文化講座」を開催。現在準備中です。座禅、写経、読経の基礎講座や、葬儀式の進め方、相続問題、仏事に関する法律講座など。住職はじめ各界の専門家の方に教えて戴く、文化講座です。詳しくはまた後日お知らせ。こんなテーマで、という提案募集中です。

